自然と人の共生を体験

「歩き」楽しむ フットパス

根室でコース整備

経済学部・泉留維ゼミ

経済学部・国際経済学科の泉留維ゼミ生30人は北海道の夏合宿で「歩き」を楽しむフットパスを体験。コース整備にも励んだ。学生たちは、自然と人間との共生を考えるきっかけを得た。

▲　厚床のフットパスを歩くゼミ生

フットパスの発祥地はイギリス。森林、田園地帯、古い街並みなどの風景を楽しみながら歩く（foot）小道（path）という意味だ。イギリスでは農村部を中心に、国内を網の目のように公共の散歩道が走っている。農場や個人の敷地内を通る道もあり、「歩く権利」として、フットパスを大切にする文化がある。

日本でも近年、街づくりのきっかけにと、フットパス運動が全国に広がりつつある。特に雄大な自然をもつ北海道は盛んで、行政や市民団体が主体となって整備に取り組んでいる。

環境経済学を学ぶ泉ゼミは、根室フットパスの厚床（あつどこ）、別当賀地区の酪農家集団「AB-MOBIT」（伊藤泰通代表）が開くワークショップに昨年から参加、別当賀地区のコース整備に励む。同ゼミはこれまで、農薬を使わない手作業の田植えや足尾銅山合宿など、環境問題と向き合う体験をしている。

「フットパス合宿」のきっかけは、泉准教授が2年前に根室のフットパスを歩き、「AB-MOBIT」のメンバーに出会ったこと。「フットパス」は自然と人間が共生する〝道〟。身をもって自然を利用する体験をしてほしい」と、同地での合宿を始めた。

今年は8月30日から9月2日まで行われた。学生たちは、放牧中の牛が牧場から逃げ出さないようにする通行門キッシングゲートの組み立てや設置に汗を流した。

▲　泉ゼミ生。前列中央が泉留維准教授

初日の夜は、宿泊所に根室市大手の水産加工業「小林商店」の林敏文社長が訪ね、学生たちに旬の味覚であるサンマや花咲ガニをふるまい、激励した。

学生たちは「フットパスを維持するのは大変だが、力になれてうれしい」「根室は空気も水産物もおいしい。人と自然がうまく共存するヒントがある」「牧草だけで育てている牛がおいしい牛乳を出すことが分かった」など、自然を楽しみながら作業に発見も多かった。

「AB-MOBIT」の伊藤代表は「若者たちがフットパスや根室の農林水産に興味を持ってくれるのはうれしいこと」と話す。

▲　夕食には根室の海の幸が振る舞われた

寄稿

伊塚　清嗣（経済3）

根室市別当賀での合宿は、昨年に続いて2度目です。

団体を創設した各牧場の頭文字をとって名付けられた「AB-MOBIT」という酪農家集団のお世話になり、牧場内のフットパス整備をさせていただきました。

私の親は地域のボランティア団体に所属していて、小学校のころは休日によく地域のゴミ拾いや米作りなどを体験していたので、農業関連の作業やボランティアに対しての抵抗は少なく、作業を行うことができたと思います。

▲　キッシングゲートづくりに励む伊塚さん（タオルを首にかけている）

手作業多く重労働だが「牧場」の役に立てた

初日は厚床フットパスを歩きましたが、フットパス沿いには、標津線の廃線跡や、かつて北海道の炭鉱のための坑木の苗木を作っていた国有林苗畑跡があり、また、見たこともない花が咲いていて、都会に住む私にとって貴重な経験となりました。

初日の夜は地域の人たちとの交流でしたが、地元の水産会社の社長さんが、取れたてのサンマや花咲ガニなどを持ってきてくださり、学生はみんなやる気がでたと思います。

本格的な作業に入ったのは2日目からです。私たちが主に行ったのは、別当賀にある馬場牧場内のフットパスの整備です。馬場牧場は、地平線まで牧草地が見渡せるほど広大で、牛が迷子にならないように看板を立て、逃げないようにゲートを作る必要がありました。

私たちは2日目にキッシングゲート（一人ずつ通過するための小開き門）、3日目にルートサイン（標識）の設置をしました。ゲートやサインを設置する際、穴を掘って木材を切り立てるまでのすべて手作業でした。かなりの重労働で、宿泊所に戻ったら、食事を担当する人以外はみな倒れていました。

そのほかの作業ではいろいろな重機を扱い、牧場の方々や牧場を訪れる人の役に立ったと思います。すべての日程が楽しく過ごせました。

来年もおそらく同じ場所へゼミ合宿に行くことになるでしょうが、来年はもっといろんなことを体験して「AB-MOBIT」の方々の役に立てるように今から来年のプログラムを考え、よりよい体験ができるよう頑張るつもりです。

専大とともに 神田神保町探索

本物の音が聴けるジャズ喫茶

Swing Jazz「RALPH & SUNNIE」

▲　スピーカー上部にラルフ・サットンの写真が

1960年代、70年代、若者たちの間で一世を風靡（ふうび）したのがジャズ喫茶。ジャズアルバムが手軽に入手できるようになって、学生街からジャズ喫茶は姿を消していったが、神田神保町には本物を聴かせるジャズ喫茶が残っている。そして新しい店も誕生している。

「RALPH & SUNNIE(ラルフ・アンド・サニー)」は、スウィング中心のジャズ喫茶だ。ベニー・グッドマン、デューク・エリントン、ルイ・アームストロング……。店内のLP、CDは2000枚を超える。モダンジャズ、クラシック音楽も聴ける。

「ジャズ喫茶の良き文化を継承したい。文化の薫る東京の神保町で」。神戸出身の井上麗さんが妹さんと2009年12月に夢をかなえた。人間の身の丈ほどの大きなスピーカーはタンノイのオートグラフ（RED）。アンプはマランツ#7、#8、#9、プレーヤーはトーレンス124。麗さんの父・啓さんは、神戸で30年前からオーディオ製品の輸入販売を専門にしている。店内の装備はすべて、本場の〝ビンテージ〟だ。

店の名は、親日家で井上一家と家族ぐるみのつきあいがあった、故ラルフ・サットンとサニー夫妻から。ラルフ・サットンは、スウィングジャズピアノの名手。麗さんが最も好きなアーティストだ。

コーヒーは神戸珈琲、クッキーやトーストに使う食パンも神戸産。壁面にはアルバムがたくさん並んでいて、店内は書斎のよう。オーナーのジャズへのこだわりが詰まっている。

スウィングの醍醐（だいご）味は、「愉しさに尽きる」と麗さん。客は50代、60代が主流だが、「自由になる時間を持つ学生にこそ訪ねてほしい」と言う。

「自分の好きなアーティストをリクエストしてもいいし、お気に入りのCDやレコードを持参してもいいですよ。気軽に訪ねて自由に聴いて、愉しさを発見してほしい」

家庭では再現できない「迫力の音」「いい音」からアーティストの熱い息吹が伝わってくるようだ。CD、LPの販売もしている。

▲　明るい雰囲気の店頭

※Swing Jazz「RALPH & SUNNIE」＝東京都千代田区神田神保町1の64　黒政ビル1階☎03・5280・0124　10時～20時（土曜～18時）。日・祝休。月に1回、ジャズライブも。